

❀ 「木質文化財研究の歩み」の開催

2022年11月26日、奈文研の共催事業として、日本木材学会木質文化財研究会が主催するトークイベント「木質文化財研究の歩み」を、平城宮跡資料館講堂およびオンライン配信によるハイブリッド方式で開催しました。木質文化財研究会は、奈文研の高妻洋成副所長が初代の代表幹事を務められた研究会で、高妻副所長が今年度末で定年を迎えられるのを記念したイベントでした。

高妻副所長による「木質文化財研究の課題と展望」と題した基調講演の後、第1部として「遺跡出土木質遺物の保存科学的研究の眺望」、第2部として「木質科学と文化財研究の交流について」というテーマを設けて、当該分野の専門の方々にご登壇いただいたのトークセッションをおこないました。

第1部では、保存処理の到達点はどこなのか、従来おこなわれてきた保存処理の評価もしくは再設計が必要なのではないか、多大なエネルギーを使う保存処理は、もっとゼロエミッションを意識しないといけないのではないか、といった専門的な熱い議論がなされました。第2部では、会場からの発言も交え、1960年代頃に文化財を扱う方々と林産学を専門とされる方々との交流がどのように始まっていったのかという両者の交流の黎明期に関する話題等、研究史を紐解くようなお話を聞くことができました。

木の文化といわれる日本の木質文化財を、科学的な立場から支える先生方の生の声を聞くことができたイベントになったかと思います。これからも、文化財と木質科学を繋ぐ仲間たちが増えていくような、そんな活動を続けていけたらと思います。

(埋蔵文化財センター 星野 安治)



トークセッションの様子

❀ 色々やらせていただきました。

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が起きました。当時、私は京都造形芸術大学で専任講師をしており、文化財レスキューのために設置された尼崎の現地事務所に通ったことを思い出します。奈文研に入所したのは同年の12月1日、埋蔵文化財センター遺物処理研究室研究員となり、同時に平城宮跡発掘調査部考古第一調査室も併任しました。発掘調査は全くの素人、当時、現場と一緒にやった皆さんには色々ご迷惑をおかけしつつ、なぜかどこかで楽しんでる自分がいたように思います。すみません。

学生時代は林産工学を専攻し、元々は木製遺物の保存をやりたくてこの世界に入ったのですが、奈文研では、木材だけではなく金属、石、土、漆等々、出土してくる色々な材質の遺物の調査分析と保存処理、発掘現場対応をやらせていただきました。失敗もたくさんしましたが、文化財に対する視野が大きく広がっていったことも実感としてあります。

奈文研で過ごした27年と4ヵ月の間には、COE事業、高松塚古墳壁画の劣化と石室解体、キトラ古墳壁画の発見と保存、イースター島モアイ像の保存処理、京大客員講座、東日本大震災における文化財レスキュー、文化財防災ネットワーク推進事業等、様々な事業に携わらせていただきました。多くの方にお世話になりましたことを感謝申し上げます。

2020年10月1日、文化財防災センターが設立されました。2023年3月で定年を迎えますが、今後は、文化財防災をライフワークとして、文化財の保護に微力ながらもつくしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

(副所長 高妻 洋成)



若かりし日の現場風景